

2016年度 委員会事業報告書

担当副理事長 中野治也

全員拡大統率委員会 委員長 小坂井敦則

1. 委員会開催日 (12回)

1/25 2/23 3/9 4/22 5/20 6/23 7/11

8/1 9/29 10/23 11/16 12/13

全員拡大デー

2/23 3/1 3/8 3/15 3/22 3/29 4/5

4/12 4/19 4/26 5/10 5/17 5/24 5/31

6/14 6/21

拡大交流会

2/13 5/13

2. 事業報告

- | | |
|------------------------|--------------------|
| ① 例会の担当 | 2月18日・11月17日 |
| ② 西尾張6JC合同オリエンテーションの担当 | 7月12日 |
| ③ オリエンテーションの担当(3回) | 8月23日・9月30日・10月18日 |
| ④ 43回JC青年の船「とうかい号」の担当 | 6月5日・6月12日 |
| ⑤ サマーコンファレンスの担当【横浜】 | 7月16日・7月17日 |
| ⑥ LOM内情報の発信の担当 | 通年 |
| ⑦ JCマンスリーの担当 | 通年 |
| ⑧ 新入会員の募集の担当 | 通年 |
| ⑨ 新入会員の拡大の担当 | 通年 |
| ⑩ 新入会員の育成の担当 | 通年 |

3. 委員会メンバー

平野伸弥 山田佳広 成田 洋

新入会員

秋田真吾 浅井英昭 浅場雄太 飯田匡崇 久保 馨 服部弘典 山崎 章 渡邊康弘

4. 反省点及び申し送り事項

本年度新入会員予定者の目標人数29名の設定に対し19名に印鑑をもらい入会の意味をいただいたにも関わらず、8名という結果になってしまいました。当委員会がすべての育成を背負い込んでしまったことで、新入会員予定者が入会に対するモチベーションを維持できませんでした。当委員会がメンバー一人ひとりに育成のお願いを促すと共に、スポンサー制度をしっかりと活用し歴の浅いメンバーにはしっかりと役割を伝え、印鑑をいただいた時点からスポンサーを付け、確実にスポンサーと新入会員予定者が連絡を取り合い密になることで解消できると考えます。また、6月の前期で拡大運動がストップしてしまいました。当LOMは新入会員予定者銓衡委員会が6月下旬～7月上旬に開催される兼ね合いで一年間の中、前期で会員拡大運動を行い、後期で会員育成を行うことが軸となっています。しかし、会員拡大運動は一年365日活動することができる青年会所運動です。メンバー一人ひとりが拡大運動を行わなければならない自覚をもち続け、

メンバーの拡大意識を高めるために委員会が中心となって拡大情報を発信し、メンバーを巻き込む必要があると考えます。そして、組織の力として会員拡大運動を推し進め、互いの強みを生かし、青年会議所の魅力を地域の人たちに伝えるために全員拡大デーの「拡大飛び込み」や新入会員予定者・対象者との「拡大交流会」でのメンバー同士で拡大について話し合う機会を作ることで新たな気づきや学びを構築できると考えます。

会員拡大運動を推し進めるにあたり、今年初めLOMメンバーの減少を認識いただき会員拡大運動をスタートし、明確な期日と一人ひとりが目標設定をしましたが、日に日にすべきことが薄れ各委員会に任せきりの拡大運動になってしまいました。LOMメンバーの拡大意識を高め、一年間を通して継続的に会員拡大運動ができなかったことは反省いたします。当委員会が先頭に立ち、メンバー一人ひとりと向き合い拡大意識が高まるよう促すことが重要と感じ申し送りさせていただきます。また、LOM全体の行動計画がしっかりと定めることができませんでした。メンバーから挙げられた数多くの拡大情報をいち早く取り纏め、行動に移せるように導くことが必要不可欠と感じ申し送りさせていただきます。

拡大運動の手法に関しまして、「拡大飛び込み」を行いました。飛び込み訪問を行うにあたり、拡大における飛び込みの重要性を理解し話法を学び合い拡大スキルの向上と拡大意識を高めることを目的に行いました。多くのメンバーが「拡大飛び込み」に参加いただき、飛び込み訪問の重要性や拡大意識が高まったこと、青年会議所の魅力が改めて認識できた等の意見をいただき、この手法は一連の成果があったと思い全員拡大を行うにあたり有効な手法であると考えます。飛び込みに対して初めてで馴染みのないメンバーの方もいましたが回数を重ねるに連れて話し方や接し方にも慣れ、青年会議所の魅力を伝える姿がありました。しかしメンバーの参加数が日に日に減少し、全員拡大の勢いが失われてしまいました。一人ひとりに誠意をもってお願いすることや事前に拡大情報を把握しメンバーに伝えることで拡大運動に対する意識を高め、その想いをメンバーで共有することで一丸となったLOMを創り出し、さらなる拡大運動ができると考え申し送りさせていただきます。

また、海部津島青年会議所7行政区の活動エリアの内、蟹江町を重点に毎週火曜日を「全員拡大デー」と日程を定め、拡大飛び込みを行いました。約1300件の事業所がある内、約700件の飛び込み訪問を行いました。約700件の飛び込み訪問の内、8名の対象者が居たことから約100件中1人の割合で候補者になり得る対象者の発掘があることが再認識できました。

本年度、「拡大飛び込み」を実施し、一連の成果があったことから次年度以降も取り組むことが必要であると考えます。しかし、メンバーを巻き込むには訪問先を丸投げの、ただ飛び込み訪問を行うのではなく委員会が候補者情報をリサーチし効率かつ迅速に対応しメンバーの巻き込みを図ることが必要不可欠と考え申し送りさせていただきます。

拡大LINEに関しまして、メンバー一人ひとりが目標を設定し、一週間ある中で各委員会が拡大情報を発信する曜日を定め、当初は拡大情報が毎日のように飛び交うことができました。しかし途中から拡大情報が少なくなり拡大意識が薄れ拡大LINEの機能が有効に活用できませんでした。拡大情報が少なくなった場合は委員会メンバーが中心となって常に拡大にアンテナを張り情報を収集し、常に更新し続けることで拡大意識を維持できると感じ申し送りさせていただきます。

育成に関しまして、全3回の新入会員予定者オリエンテーションを通して新入会員予定者に青年会議所の魅力を伝え、基礎知識と心構えを身につけ、経験に基づく学びを伝えることでJAYCEEとしての礎を築いていただきました。参加者の出席率につきまして、新入会員予定者オリエンテーションでは新入会員予定者が44.4%、メンバーが73.5%とメンバーに対して新入会員予定者の参加が大変少なかったことは反省いたします。青年会議所活動について、経験の浅い新入会員予定者にとりまして事業や例会の日程調整をすることは容易なことではありません。早い段階から日程を伝え、新入会員予定者はまだ海部津島地域に疎いことや青年会議所についての知識が浅いことを考えると当日はメンバーと一緒に送迎する配慮をする

ことで育成につながり有効なことと感じ申し送りさせていただきます。

また、スポンサー制度に関しまして、スポンサーや新入会員予定者をお誘いいただいたメンバーに対し有効に活用できませんでした。新入会員予定者のフォローアップもスポンサーと委員会が連携を強め、メーキャップやアテンダンスも一緒になって同行することが有効であると考え申し送りさせていただきます。

本年度、オリエンテーション・例会・総会を経て新たな同志8名を正会員として迎え入れることができました。次年度55周年を迎える我われ一般社団法人海部津島青年会議所が当LOMに新たな風を起こすために新たな同志となった新入会員予定者が創始の想いに触れることで、どのような想いで先輩方が当青年会議所を設立したのかを感じていただき、メンバーが新入会員予定者とともに語り合い新たな視点で学びを得る機会となりました。メンバーが創始の想いに触れることは学びとなるとともに青年会議所活動における活力を得ることができると感じ申し送りさせていただきます。

次年度以降も続く会員拡大運動では、一人ひとりが真摯に拡大運動の大切さと向き合い、LOMにおかれている現状を理解していただくことが必要不可欠と感じます。また、全メンバーが会員拡大運動に携わるよう拡大における強みを生かした担当を設定し、役割を果たすことでLOM全体に全員拡大運動の風を起こし、拡大意識を高めることで青年会議所の活力につながると感じ申し送りさせていただきます。

全員拡大運動を通して、LOMメンバー一人ひとりが海部津島地域に青年会議所の存在を示すことが必要であると考えます。青年会議所の魅力を発信することで自己の成長につながり、また会員拡大運動につながると確信し申し送りさせていただきます。

4. 委員長所見

まず始めに、私が一年間を通して、議案を構築することが全くできていなかったことに関して猛省します。議案上程の提出期限を守ること、委員長としての責務を果たすこと。当たり前のことができていませんでした。自分自身の甘さがこの結果を招き、青年会議所活動を円滑に進めることができなかつたことに対して全メンバーにお詫び申し上げます。誠に申し訳ございませんでした。

会員拡大運動は一年365日活動することができる青年会所運動ですが、私自身が会員拡大運動に向き合っていませんでした。「誰かがやってくれるだろう」と人任せとなり当事者意識が薄れていたと感じます。この行動が悪い見本となりメンバーの拡大運動の意識低下を招いたと感じ反省いたします。会員拡大は何のために必要なのかを考えた時に自己成長のため、地域貢献のため、いろいろな理由がありますが会員の減少は運動を発信する仲間の減少、活動規模の縮小など、この組織を維持していくことが難しくなるため会員拡大は必要不可欠と考えます。私たちは青年会議所運動を通して、この団体に入りたいと思わせるように日々の活動を努めなければならないと考えます。そして、私たちは一年間を通して会員拡大運動を行うにあたり重要なことは拡大意識を常にもち続けることが必要であると思います。そのためには行動計画を立て達成すべきゴールを決め、常日頃から会員拡大の目標をもち、そのゴールの差を明確にすることで拡大意識を高めることができると思います。また「やらされ感」を無くしメンバー一人ひとりが常に拡大運動に対し意識をもち、率先して行動に移れば会員の増加につながり、素晴らしい団体である一般社団法人海部津島青年会議所になると確信します。

最後になりますが、全員拡大・全員育成に対しご協力いただいた全てのメンバーの皆様や一年間支えていただきました委員会メンバーの皆様に感謝申し上げます。一年間、誠にありがとうございました。

5. 収支決算

収入の部				支出の部			
予 算		決 算		予 算		決 算	
事業費	30,000	事業費	27,334	③	30,000	③	27,334
合 計	30,000	合 計	27,334	合 計	27,334	合 計	27,334